

【英語】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力や、自然な口調で話される会話や英文を聞いて、その場面や話題等大まかな内容や要点を聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ80%を上回っている。

英語による問いかけから相手が尋ねたい内容を正しく理解し、言語形式によらない場合も含めて適切に应答する力をみる問題では、正答率が60%を下回っている。

「読むこと」について、具体的な内容を正しく読み取ったり、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力、場面に応じた適切な英語表現の使い方の理解をみる問題では、正答率が80%を上回っているものが多い。

文章や会話の流れを理解し、状況に応じて適切に应答する表現を選択する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

「書くこと」について、与えられた場面や英文を手がかりに内容が正しく伝わるように英文を書く力をみる問題では、正答率が75%を上回っている。

一つの話題について、読み手を意識しながら伝える内容を整理してまとまりのある英文を書いたり、英文の構造を理解して正しい語順で書いたりする力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1) 問いかけに対して適切に应答する力をみる問題の例

< 問題 > ① の2 (テープ問題)

これから放送するように英語で話しかけられたとき、どのように答えますか。应答として最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

2 (放送文) Look at that new student. Who is she?

ア Yes, she is. イ She is Kumiko. ウ She is a student. エ She plays the piano.

< 結果 > 正答率... 36.2% (正答...イ)

< 分析 >

この設問は、英語で問いかけられている内容を正しく聞き取り、それに対して適切に应答する力をみる問題である。4問中3問は正答率が60%を下回っており、昨年度までと同様、依然として聞くことにおける「適切に应答する力」には課題がある。

①の2は、Look at that new student. Who is she? に対して、She is Kumiko.と答える問題である。誤答としては、アとウが多く、アの場合は、who に対する基本的な言語形式に基づく应答の仕方の定着が弱いと考えられ、イの場合は、who の機能については理解できているが、会話の状況や話し手の意向について、質問文の前の英文と関連付けながら把握できなかったためと考えられる。

また、①の4についても、Do you have a pen?が、「ペンを持っていますか」という文字どおりの意味ではなく、「ペンを貸してください」という話し手の意向が含まれていることが十分にとらえられていない。言語形式に基づいて正しく应答する力とともに、相手の意向を理解して应答する力を一層付ける指導が必要である。

(2) くわしい内容を読み取る力をみる問題

< 問題 > ④ の1

1 次の英文は、マイク(Mike)の平日の夕方からの生活について書かれたものです。マイクの生活を正しく表しているものはどれでしょう。

I come home at five. I go to the park with my dog. And I help my mother. At six thirty I have dinner. From seven I watch TV. I use my computer and study from eight. I go to bed at ten.

選択肢は省略

< 結果 > 正答率 85.4% (正答...略)

< 分析 >

この設問は、会話文や英文を読み、そこで話されたり書かれたりした具体的な内容を正しく読

み取る力をみる問題である。

4の1は、「いつ」「何をやる」といった情報を読み取り、その内容を正しく表している日課表を選ぶ問題である。7文というある程度まとまりのある英文から、go, help, have, watch, use等の具体的な行為を表す動詞や、at ... from ...等の時・時刻を表す語(句)を手がかりに、帰宅後の生活について具体的に読み取ることができている。過去の類似問題からみても、キーワードに着目し、詳細な情報を整理して正しく読み取る力は安定して付いていると言える。

(3) 話の流れを理解する力をみる問題の例

<問題> 6の1

1 次の英文は、ジョン(John)がアン(Ann)に送った電子メールの一部分です。しかし、【 】の部分が消えたまま送られてきたようです。【 】の部分にジョンが書こうとした英語はどれですか。

Hello, Ann. I have a good friend. His name is Ken. He likes music. He plays the piano very well. He plays it every day. 【 】 , too. I play them with him every Sunday.

ア I often read music books

イ He has a soccer ball

ウ He likes baseball and soccer

エ You play baseball and soccer

<結果> 正答率 50.8% (正答...ウ)

<分析>

この設問は、文章や会話の流れを理解して、前後関係から適切な表現を選択することができる力をみる問題である。

6の1は、前後の文を読んで、その間に入る文を選択するものである。誤答は、I often read music books. が最も多く、music, piano の話題が続いてきていることに影響されている。しかし、【 】の後ろの文 I play them with him every Sunday の them に着目することができれば、【 】には them が示す複数のものについて言及されていることが推測できる。文章を読むときには、一文一文の意味を正しく理解するとともに、それぞれの英文の「前後」のつながりを意識しながら読み、書き手の意向を理解することができる力を一層高める必要がある。その際、代名詞が示している中身を捉えながら、文脈を正しく把握する指導を大切にする。

(4) 内容が伝わるように正しく書く力をみる問題の例

<問題> 9の1

1 下のケン(Ken)の絵を見て、彼の様子について言えることを、1文の英語で書きなさい。



<結果> 正答率 77.7% (正答...略)

<分析>

この設問は、与えられた場面や英文を手がかりに、内容が正しく伝わるように書く力をみる問題である。

9の1は、絵から「ケンがサッカーをしている」「ケンがサッカーが好きだ」「ケンがサッカー選手だ」等の内容を想像し、それが読み手に正しく伝わる英文を書くことになる。He plays soccer. He likes soccer. He is a soccer player. 等、適切な動詞や文構造を用いて英文を書く必要がある。正答率は77.7%であることから、主語[Ken/ He] + 動詞[plays / likes] + 目的語[soccer]. という第1学年として身に付けるべき基本的な文構造を用いて書く力はおおむね付いていると考えられる。

9の2、10の1においても同様の傾向が見られ、[主語 + 動詞 + 補語]、[主語 + 動詞 + 目的語]の文型を使って、3~4語程度の英文を正しく書く力は付いてきているといえる。

今後は10の2の... of ~を用いた文(正答率47.7%)のような、日本語と異なる文構造への指導を充実させていくことで、第2学年、第3学年において、自分の考えや気持ち、事実等を、適切な表現を選択して正しく伝えることができる表現力につなげる指導が大切である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

小学校で養われたコミュニケーション能力の素地を生かしたスムーズな導入を！

- ・小学校の英語活動を通じて養われる「コミュニケーションに対する積極的な態度」「英語への慣れ親しみ」等の状況を把握し、特に4, 5月には小学校で扱ってきた言語材料や言語活動を踏まえ、生徒が意欲的に取り組める音声重視の指導計画を工夫改善する。
- ・本学習状況調査や日常の授業での生徒の観察等から、年度末、学期末、単元末等の節目ごとに生徒の学習状況を把握し、その要因を指導計画の面から分析する。分析から明らかになった課題となる力を付けるために必要な指導事項を重点的に扱う単元の指導を工夫し、指導計画を常に見直しながら実践の充実を図る。

3年間を見通して、適切に応じる力、表現する力が身に付く指導を！

- ・今回課題となった、以下に示す指導事項を重点とする単元を抜き出し、付けたい力の一覧表を作るなどして、3年間で系統的・発展的に指導できるよう年間指導計画を見直す。

- * 「聞くこと」(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- * 「読むこと」(ウ) 物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること。
- * 「書くこと」(ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。

その際、出口となる3年生で目指す姿を、具体的な英文とコミュニケーションを図る姿からイメージする。その実現に向けて、第1学年で定着を図る必要のある指導事項の具体的な内容や言語材料を明らかにし、言語材料を活用しながら実際にコミュニケーションを図る活動をきちんと位置付ける。また、基本表現については、年間を通じて繰り返し触れることで習熟を図るよう工夫する。

(2) 指導方法の工夫改善

具体的な場面設定の中で、繰り返し習熟を図る指導と一人一人の見届けを！

- ・言語形式による応答が確実にできるよう、yes-no 疑問文や wh-疑問文とその応答の仕方について、第1学年時に正しく理解させ習熟を図ることが大切である。特に、wh-疑問文については、具体的な場面設定の中で、疑問詞の意味・機能・形態を正しく理解するとともに、繰り返し使用し、一人一人の習熟について丁寧に見届ける。また、必要に応じて全体で復習したり、発話した英文を書き留めさせたり、家庭学習で復習させたりするなど指導を工夫する。
- ・言語形式によらない応答の仕方についても、意思疎通を図る実践的なコミュニケーション活動を設定し、言語の働きに着目させながら第1学年の段階から指導する。

全体を把握するとともに、文脈や話し手の意向を理解する指導の充実を！

- ・口頭によりコミュニケーションを図る際には、文頭の疑問詞や動詞、名詞等の内容を表す英語に注意しながら、話し手の意向や内容を聞き取ることの大切さを指導する。
- ・文章の要点や文脈を把握することができるよう、まとまりのある文章のタイトル付けや英文の並べ換え等の活動を行う。特に、前後の関係や代名詞に着目して、文脈や話の流れを意識した読み取りをする。

読み手を意識して、まとまりのある英文を書く指導の充実を！

- ・英文の基本的な構造([主語+動詞+補語]、[主語+動詞+目的語]等)の定着を図り、正しい英文を書くことができるよう、授業中に発話した英文を書き留める活動を繰り返したり、家庭学習で書いてきた英文を一人一人見届けたりするなど指導の充実を図る。
- ・教科書の英文を積極的に参考にして活用することを進めるとともに、自己紹介、仲間紹介、日記等の「書くこと」を重点とする単元の中で、接続詞の使い方や内容のつながり等、パラグラフ内の一貫性に留意して書くことを指導する。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

自然に英語に触れることができるCDやALT等の積極的な活用を！

- ・小学校段階において養われた英語の音声に対する素地を生かし、ALTやCDによるオーセンティックな英語を聞く機会を多くもつようにして、発音、強勢、音変化、イントネーション、区切り等が適切に用いることができるよう指導する。

授業以外でも英語に触れることができる環境の充実を！

- ・中学生向けの英字新聞や英語の書籍を閲覧できるコーナーを設置し、授業でも触れることにより既習事項でも理解できることを実感させる。
- ・教室や廊下に、英語による自己紹介や絵はがき等の作品を掲示し、学び合いを促す。

「書くこと」についての効果的な家庭学習の指導を！

- ・家庭での単語の学習を効果的にするために、授業中に音と文字のつながりや綴りの特徴等を指導し、家庭においても意識的に練習ができるようにする。
- ・授業で学習した英文を使い、自分の生活等決められたトピックについて文を書くことを継続的に行うことができるよう、家庭学習のやり方を具体的に指導する。

- (例)「今日の授業で聞いたり話したりしたことをできるだけ思い出して、会話の形で書こう」
- ・個々のノートに朱書きをしたり授業中に価値付けたりして、意欲の向上を図る。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善(H16~18)及び授業改善推進プラン(H19~)」を参照する。<http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>